

音楽科学習指導案

日 時：平成 26 年 10 月 10 日（金）

学 級：2 年 2 組（男子 15 名 女子 14 名）

授業者：教諭 村 山 和 代

1 題材名 混声合唱へのステップ①

2 題材について

(1) 生徒観

これまでの音楽の学習においては、1 年時では声部の重なり方の特徴を感じ取りパートの役割について学習し、役割にふさわしい歌い方を意識しながら歌ってきた。2 年時ではリズムや音の重なりが変化することによる曲想の変化や、ユニゾンや和声的・多声的な重なりにより生み出される味わいを感じ取り、それにふさわしい表現の工夫について学習してきた。旋律の重なりを知覚し曲の雰囲気を感じ取りながら歌うことを楽しんで歌う生徒は比較的多い。しかし、表現するときに、想いは込めているが、それが相手に伝わる表現になるためにはどのような歌い方を工夫したらよいかまで十分に考える機会が少なく、生徒は指導された内容で表現することが多かった。そこで、ここでは込められた思いが伝わるための表現方法の工夫を自分たちで考え、試行錯誤しながら思い描く表現ができるよう学習していく。

(2) 題材観（教材観）

本題材では、楽曲の作詞者や作曲者の気持ちに触れながら、どんな表現方法で、そこに込められた思いを伝えていくか真剣に楽譜に向き合う姿勢づくりを大切にしたい。本来は、混声合唱について取り扱う場合、ハーモニーや声部の役割について学習していく。ここでは、これまで学んできた既習事項を深めていくような学習内容を設定した。鑑賞活動も取り入れながら考えさせ、実際に表現していく中での試行錯誤から生まれる、豊かな表現活動に結び付けていく手がかりとしたい。そして、授業の始終、感じ取ったことを自分の言葉で説明しながら、より良い表現を身につけさせたい。そのために、個々の考えを全体に伝え、共有し、音楽表現の創意工夫を実際に歌ってみながら検証・評価していく。さらに、より豊かな表現活動へステップアップしていくことを目的としている。

本時で扱う教材に、ZERO キッズというミュージカル団体が上演した「そのふ・し・ぎ」の最後に歌われる、テーマソングがある。「さまざまな出来事、初めての経験やまだ見ぬ未来に不安を抱くとき、次のステップや新しいことに挑戦するとき・・・あなたは一人じゃない。あなたの後ろにはいつもあなたを見守っている人がいる。心配しないで一歩踏み出してごらん。」というメッセージが込められている。楽曲は、4 小節ごとのフレーズ感で、最初はユニゾンから始まり、少しずつ副次的な旋律が加わり、サビの部分で全パートが揃い、ハーモニーで一体感を感じさせる構成になっている。また、旋律が歌詞の意味から醸し出す様子に合わせて 1 音ずつ下降や、上昇していく様子が楽譜上で見てとれるため、旋律と言葉の関わりから強弱などの表現の工夫を考えやすい曲となっている。この曲を通して、楽譜を読む力を身につけさせていきたい。

(3) 指導観

学習指導要領の内容は、「A 表現」(1) ア（歌詞の内容や曲想を味わい、曲にふさわしい表現を工夫してうたうこと）〔共通事項〕アのうち、リズム、旋律、強弱などを扱う。また、〔共通事項〕のイ（音楽を形づくっている要素とそれらの働きを表す用語や記号などについて、音楽活動を通して理解すること）についても指導する。

本題材から、聴取活動を取り入れながら、自分のイメージや考えを生かして豊かな音楽表現を工夫し進めていく。また、言語活動を通して、感じ取ったことを自分の言葉で説明し、さらに意見の交流を行う協同学習活動を中心に考えを深めていく。そして、自分なりに感じたことや考えを伝え合い、個々の考えの幅を広げながら、楽曲に対するふさわしい表現の工夫ができるようにしていきたい。

3 題材目標

楽曲の歌詞の内容や曲想を味わいながら旋律線を理解し、楽譜上から読み取れる作者の思いに触れながら、それにふさわしい表現を工夫して歌う。

4 題材の評価規準

ア：音楽への関心・意欲・態度	イ：音楽表現の創意工夫	ウ：音楽表現の技能
歌詞の内容（言葉の意味、歌詞が表す情景や心情など）や曲想、楽曲の旋律線に関心をもち、それを生かし曲にふさわしい音楽表現を工夫して歌う学習に主体的に取り組もうとしている。	音楽を形作っている要素（リズム、旋律、強弱）を知覚し、それらが生み出す特質や雰囲気を感じながら、歌詞の内容や曲想を味わう、旋律線について理解するなどして、曲にふさわしい音楽表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。	創意工夫を生かし曲想にふさわしい音楽表現をするために必要な技能（発声、言葉の発音、呼吸法、読譜の仕方など）を身につけて歌っている。

5 指導と評価の計画（6時間扱い）

時間	○ねらい ・学習活動	題材の評価規準	評価方法
楽譜から作曲者の意図を読み取り、個々の思いや意図と照らし合わせながら、楽曲にふさわしい演奏方法を工夫し表現させる。			
1	○楽曲の歌詞が表す情景や心情などに関心をもち。 <ul style="list-style-type: none"> 歌詞を群読し、詩の雰囲気を十分に味わう。 教師の詩の朗読を聴きながら特に印象的な言葉に線を引き、その箇所を発表し合い、互いの思いに触れる。 詩についての感想を書く。 	ア	学習の観察 楽譜
2	○パートの役割を理解し、歌い方を工夫しよう。 <ul style="list-style-type: none"> 各パートの旋律の関係を知覚し、パートの役割から歌い方の工夫をパートごとに意見を出し合い表現につなげる 	イ	学習の観察 楽譜
3	○音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じる。 <ul style="list-style-type: none"> 楽曲を歌ったり範唱を聴いたりして、リズムや旋律、強弱を知覚・感受し、それを各自気づいたことを書く。そして歌詞との結びつきについても意識させる。 ○リズム・旋律・強弱の特徴を意識し音楽表現を創意工夫する。 <ul style="list-style-type: none"> 言葉や旋律の関係から自分が考えた強弱を書き込む。 それを発表し合い、作曲者の強弱と照らし合わせ、作曲者の意図を深く読み取り、表現へ生かす。 	イ	学習の観察 ワークシート
4	○旋律線の特徴について理解し表現に生かそう。 <ul style="list-style-type: none"> 旋律（音のつながり方、フレーズ、）の特徴について気づいたことを発表し合い、旋律の特徴について理解を深める。 ○旋律線の特徴から、音楽表現の工夫を思案する。 <ul style="list-style-type: none"> 歌詞の内容も照らし合わせながら意図を持って旋律線に合わせた動きなど具体的に表現方法を各自が提案する。 	ア イ	学習の観察 ワークシート
5	○旋律線の特徴から、音楽表現の工夫を試みる。 <ul style="list-style-type: none"> 前時で提案した表現方法を全体で確認する。 歌詞の意味が伝わるような歌い方を工夫する 	イ	学習の観察 ワークシート
6	○自分たちの意図を生かした表現方法を工夫して歌おう。 <ul style="list-style-type: none"> 曲全体を通して、歌詞の意味が伝わるような歌い方を工夫し表現する 	イ ウ	学習の観察 ワークシート

6 本時の学習

(1) 本時のねらい

楽譜から読み取った作者の願いや自分たちの表現方法についての思いや意図をもとに、それらを伝えるための演奏方法について他と意見を交流し、楽曲にふさわしい表現を目指しながら歌うことができる。(学習指導要領 「A 表現」(1)のア)

(2) 研究主題との関わり

【視点1】明確な学習課題の提示

本時は、これまで自分たちで考えてきた表現の工夫を生かし、聴き手に歌詞の内容が伝わるようにするための演奏の方法を工夫する。そのために、導入において、前時で学習した自分たちの工夫した表現方法（言葉や旋律、強弱の特徴から考えた意図的なもの）について確認する。その時に、拡大楽譜や強弱記号のカードを使用し、視覚的に確認することで、課題に向けた意識づけを強化する。

【視点2】学び合いを通して、思考力・判断力・表現力を高める授業づくり

学習過程の中では、本研究で一貫して行ってきた「感じる(感受)」→「考える(創意工夫)」→「表す(伝える)」の一連の流れの中で、自分の意見を全体の中で伝え合いより良い演奏を目指していく姿を最終ゴールとする。そのためには、個々の想像力やより具体的に追及する思考力が要求される。周囲の意見をその手がかりとしながら、自分なりの意見を持ち演奏方法を試行錯誤していく過程を大切にさせたい。

(3) 展開

過程	学習活動・学習内容《形態》	指導上の留意点 ☆思考力・判断力・表現力を高める指導 ★学び合い[視点2]
導入 10分	1 振り返りをして本時の課題を確認 ・これまでの学習の振り返りをし、楽曲の特徴について理解したことを確認する。 ・前時に工夫した歌い方について発表し合い他者の考えから考えを深めていく。さらに、参考となった意見を記録し、どこが参考となったか発表する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">歌詞の意味が伝わる歌い方を工夫し表現しよう</div>	・拡大楽譜を準備し、これまでの学習の足跡が見えるようにする。 ・前時の創意工夫した音楽表現が伝わる歌い方の工夫の紙板書を掲示し確認する。 ＜明確な学習課題の提示[視点1]＞
展開 35分	2 歌い方の工夫をする ※考える旋律の部分を指定する <div style="border: 2px solid blue; border-radius: 20px; padding: 10px;"> <p>考える部分を歌ってみる(2分) ↓【感じる(感受)】《全体》</p> <p>歌い方の工夫について考えを書く(3分) ↓【考える(創意工夫)】《個人》</p> <p>意見交流(5分) ※参考となる意見をWSに赤ペンでメモ ↓【表す(伝える)】《全体》</p> <p>参考曲鑑賞(2分) ※歌い方を具体的に聴き取る ※歌い方の参考となる曲を鑑賞し考えを深める ↓【聴き取る】《個人》</p> <p>意見交流(5分) ※参考となる意見をWSに赤ペンでメモ ↓【表す(伝える)】《全体》</p> <p>意見の多かった工夫について歌ってみる(10分) ↓【試行】《全体》 ※聴き手に伝わった歌い方か確認し、不十分であれば再度歌い直してみる。</p> <p>歌い方を工夫してみたの感想を書く(3分) ↓【検証】《個人》</p> <p>意見交流(5分) ↓【表す(伝える)】《全体》</p> </div>	・旋律の流れが優先してしまい、言葉の意味がはっきり聴き取れない箇所や、語りかけるように歌うミュージカル曲の雰囲気醸し出させるような気持ちで表現を工夫させる。 ・子音の発音をはっきりさせることで、言葉が伝わりやすくなることなど、技術的なことも確認していく。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">★全体の中で級友の意見から学び取り自らの考えを深めさせる。</div> ☆実際に表現してみることで試行錯誤しながら豊かな表現を目指すために自分の考えを持ち、表現活動に参加する姿勢をつくらせる。 ☆歌詞の意味が伝わるためにどこを、どのように歌い方を工夫したか、そして検証したことが思い通りの表現かどうか感想の中に書かせる。
終末 5分	3 自己評価を書く《個人》	・学級での合唱練習につなげていく ・次回は、今回の試行を参考に、曲全体を通して、考えさせていく。

